



▲釣れるカマスはアカカマス。ヤマトカマスは交じらない
▶ウロコが剥がれやすく滑りやすいのでフィッシュグリップがあると便利



▲取り込みはハリスをつかんで抜き上げよう



▲良型のアジも交じった。恒丸ではアジ乗合も出船している
▶カマスの群れの上層にはサバも多く、うまくかわせればほぼカマスが掛かってくる



▲魚群探知機の反応は底から30メートルまで真っ赤に表示されるほど魚影は濃い
▼朝早い時間は穏やかだったが、次第に荒れ模様となった



★上アゴに掛かれればバレにくい



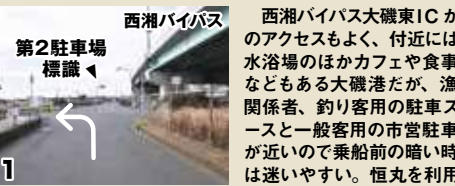
▲大中小とサイズは様ざまだが35センチ前後が多かった

★数年ぶりに好模様な相模湾のカマスだが当地では古くから人気の釣り物だ

相模湾大磯港出船 アタリから掛けるまでが楽しい 二宮沖の激うまカマスを釣ろう

撮影◎本誌編集部

もう迷わない! 駐車場へのアクセス



1 ▲東京方面からは国道134号から脇道に分岐して進むと大磯港第2駐車場の看板が見えてくるが、その手前を左折する

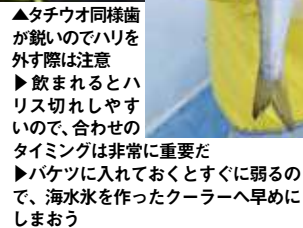


2 ▲左折するとすぐにゲートがあるので、ゲートのボタンを押して入る。入ったらすぐに左に曲がる

西湘バイパス大磯東ICからのアクセスもよく、付近には海水浴場のほかカフェや食事処などもある大磯港だが、漁港関係者、釣り客用の駐車スペースと一般客用の市営駐車場が近いので乗船前の暗い時間は迷いやすい。恒丸を利用した乗船者にはおかみさんから専用の駐車券が配られるので、必ず車のダッシュボードに見えるように置いておくこと。



3 ▲左に曲がってすぐの建物の下が恒丸の受付。車は建物の前に停めよう



▲クセがなく脂の乗ったカマスはどんな料理にしても美味。写真は炙り刺しとフライ

カマスは食味も魅力で、炙り刺しや一夜干しにすると抜群にうまい。現在の好模様がいつまで続くかは分からないので早めの釣行をおすすめしたい。(詳細は56ページ参照)

古くから相模湾で楽しまれていた冬の人気ターゲットカマスが、今年は今よりも調子がいい。アタリが小さく合わせのタイミングが難しいテクニカルな一面もあるが、コツさえつかめれば初心者でも数釣りを楽している。

相模湾大磯港の恒丸を取材した2月上旬も二宮沖の水深210メートル、海面から170〜180メートル前後のタナを狙うと25〜40センチ級が次つぎに上がり食い活発。当日は南西強風により早揚がりとなりトップ29本に留まったが、好天に恵まれた翌日はトップ69本と絶好調。

▲タチオ同様歯が鋭いのでハリを外す際は注意
▶飲まれればハリス切れしやすいので、合わせのタイミングは非常に重要だ
▶バケツに入れておくとすぐに弱るので、海水氷を作ったクーラーへ早めに入れよう



▲釣り場は二宮沖の水深210メートル前後
▼良型のカマスは見かけによらずなかなかの引きを見せる



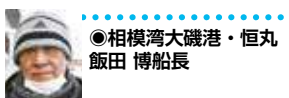
▼エサはサバの切り身



▲エサ付けは皮のほうからチョン掛けてOK



◀仕掛けはハリス7号、全長3.8メートルの胸つき3本バリ。オモリは150号
◀カマスは歯が鋭くハリスが傷みやすいのでハリス付きの替えバリを用意しておこう



◎相模湾大磯港・恒丸 飯田 博船長